

平成23年度国立大学図書館協会海外派遣事業参加報告書

山口大学情報環境部学術情報課

木越 みち

このたび、平成23年度国立大学図書館協会海外派遣事業により、フランス国内の複数の図書館を訪問し調査研究を行ったので、以下のとおり報告する。

1. 訪問期間

平成23年11月12日（土）～11月21日（月）

2. 訪問先 / 担当者

- (1) Bibliothèque National de France / Ms. Mireille Ballit
- (2) Bibliothèque publique d'information / Ms. Aude Penanhoat
- (3) Centre d'études supérieures de la Renaissance (Tours) / Ms. Marie-Luce Demonet,
Mr. Toshinori Uetani
- (4) Bibliothèque universitaire de médecine (Tours) / Ms. Martine Augouvernaire

3. 調査研究内容

フランス国内の図書館・研究所における資料電子化の動向およびその提供方法について調査を行った。対象資料の選定方法、現在進行中のプロジェクト、現在および今後の課題等について、担当者へのインタビューを行うとともに、実際の電子化作業についても見学の機会を得た。

4. 調査研究の成果

フランス国立図書館では、1990年という早い段階から資料の電子化を開始し、2008年以降は年間平均10万点のペースで電子化を進めている。大量電子化の推進とともに、ここ数年は、特に電子コンテンツの公開や活用方法において、先進的な取り組みを行っている。画像データのOCR化やインデックスの付与による検索利便性の向上、オンデマンドプリントへの対応、電子書籍端末での閲覧のためのePub形式での提供、そしてブログやFacebookでコンテンツを共有可能とするなど、コンテンツ利用の可能性を追求している点に学ぶものが多くあった。

その他の訪問機関においても、それぞれの所蔵資料、サービス対象の特色に沿った電子化事業が推進されていた。特にトゥール大学医学部図書館では、地域の研究者、自治体と連携し、自館所蔵資料以外の地域資料（19世紀後半に地域で出版された医学雑誌等）の電子化を行っており、こうした取り組みは、我が国においても大学図書館が地域貢献を行っていく上での一つのモデルケースになると思われる。

今回の訪問では、館種、サービス対象の異なる機関における電子化の実情を調査することができ、フランス国内の電子化の動向を把握する上で大変有意義なものとなった。